

## メッセージアウトライン

### ヨハネ14：18~24「ともに住まれる神」

「わたしはあなたがたを捨てて孤児にはしません。わたしは、あなたがたのところに戻ってくるのです」(18) イエスは助け主なる御霊(聖霊)というかたちで戻ってこられる。(16,17参照)父、子、聖霊なる三位一体の神はそのようにして弟子たちとともにいてくださり、彼らはこの世で孤児のように置き去りにはならないのである。「いましばらくで世はもうわたしを見なくなります。しかし、あなたがたはわたしを見ます」(19)その理由は「わたしが生きるので、あなたがたも生きるからです」と言われている。これはイエスが私たちの罪の贖いを成し遂げられて、天に帰られ永遠に生きておられるように、そのイエスを信じる弟子たちも永遠のいのちをいただいた者として、信仰によって靈的にイエスを見上げつつ生きることができるということである。

「その日には、わたしが父におり、あなたがたがわたしにおり、わたしがあなたがたにおることが、あなたがたにわかります」(20)「その日」とは世の終わりのイエスの再臨のことではなく、聖霊が父なる神のもとから降られる日、すなわち使徒2章に出てくる聖霊降臨の日のことである。このときから聖霊が豊かに働かれる時代が始まり、それは今日にまで至っているのである。この聖霊が与えられて初めて、イエスを信じる者はイエスにおり、イエスもまた信じる者とともにいてくださり、そしてそのイエスは父におられるという靈的な関係が理解できるのである。「わたしの戒めを保ち、それを守る人は、わたしを愛する人です。わたしを愛する人はわたしの父に愛され、わたしもその人を愛し、わたし自身を彼に現わします」(21)

「わたしの戒め」とは特に13:34で言われた「わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」であろう。これを実行し守る人は、すなわちイエスを愛する人なのである。私たちが誰かを愛するならば、その人の喜ばれること、望んでいることを行おうと思うだろう。そのような人は父なる神に愛され、イエスもまた彼を愛し、イエスご自身を彼に現わされるというのである。イエスの弟子とイエスと父なる神との麗しい愛の関係がここに現わされている。互いに愛し合うというイエスのみことばを実行していく時に、私たちはますますキリストを知り、神に愛される者となり、この世に影響を与えていく者となることができるのである。

イスカリオテでないユダの質問(22)に対してイエスは、「だれでもわたしを愛する人は、わたしのことばを守ります。そうすれば、わたしの父はその人を愛し、わたしたちはその人のところに来て、その人とともに住みます」(23)と答えられた。旧約時代、神はイスラエルの中に生まれ、イスラエルとともに歩まれた。→出エジプト25:8,29:45,レビ26:11~12 それと同様に、いやそれ以上に今、父・子・聖霊の三位一体の神がイエスのことばを守るクリスチャンたちとともにいてくださり、その内に住んでくださるというのである。(今現実には!)しかし、イエスのことばを守らない者は父なる神のことばを守らない者であり、そのような不信仰な人々にくらイエスのほうから近づいていっても、決してイエスを受け入れることはないのである。それでイエスはご自分を世に現わそうとはなさらないのである。私たちはお互いを愛するという点において、本当に神を愛し、その戒めを守っているかということが試されるのである。→ I ヨハ4:7~12,20~21